

令和 7 年度  
第 3 回学校運営協議会兼  
第 3 回学校関係者評価委員会

第 3 回学校関係者評価委員会資料  
学校評価アンケート結果より



令和 8 年 3 月 5 日  
生駒市立生駒東小学校

# 児童アンケート

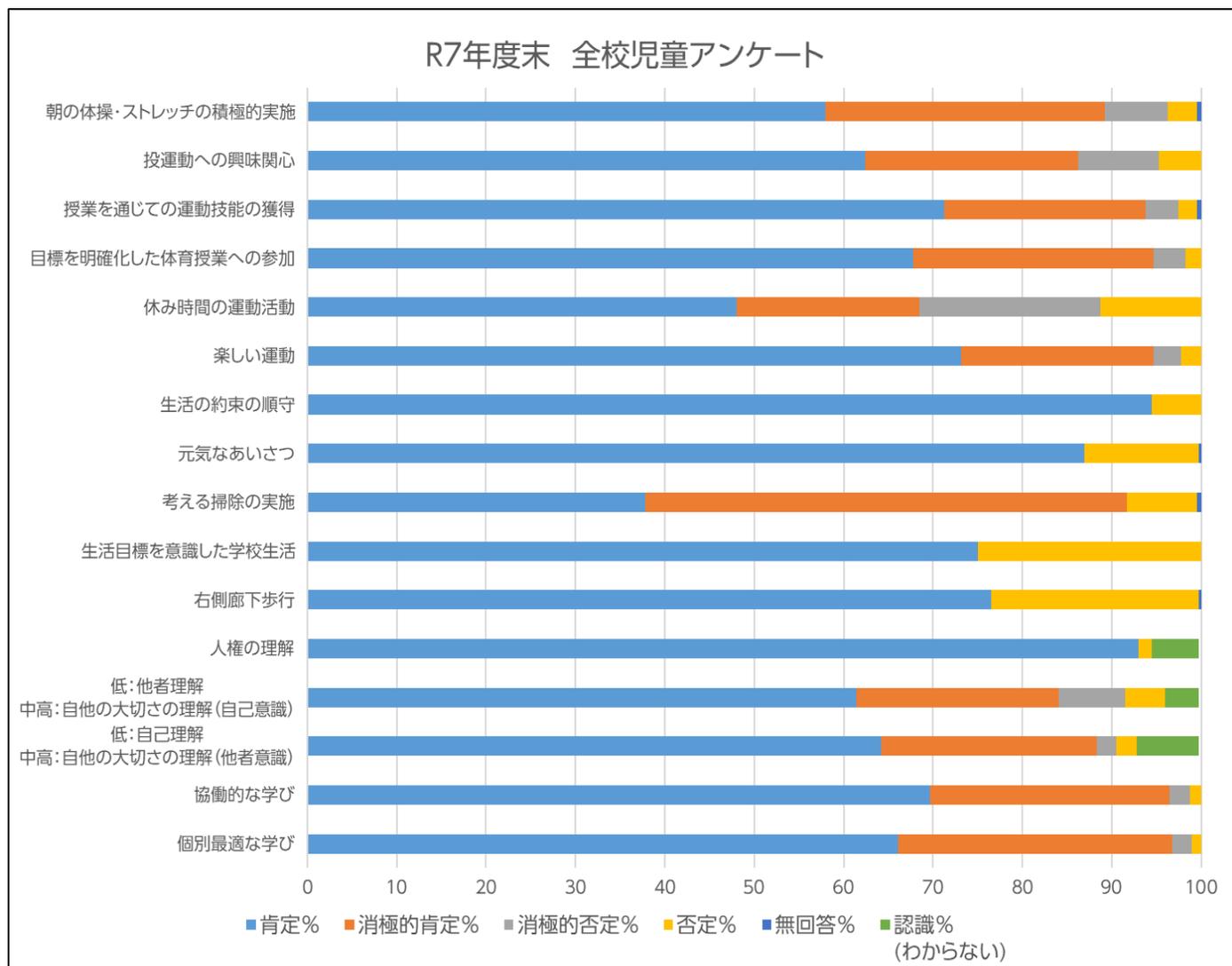
分類	番号	項目	肯定	消極的肯定	消極的否定	否定	無回答	認識
研究推進	1-①	<b>個別最適な学び</b>						
		低学年：自分で考えたり、友だちの意見を聞いたり、学習の仕方を知ったりすることができましたか。	できた	どちらかという とできた	どちらかという とできなかった	できなかった	無回答	
	高学年：場面に応じて、自分で考えたり、友達と考えたり、学習の仕方を選ぶことができましたか。	できた	どちらかという とできた	どちらかという とできなかった	できなかった	無回答		
	1-②	<b>協働的な学び</b>						
低学年：学習の中で、友だちや周りの人から、新しいことを知ることができましたか。		できた	どちらかという とできた	どちらかという とできなかった	できなかった	無回答		
高学年：友だちと学ぶことで、学習のめあてに近づくことができましたか。	できた	どちらかという とできた	どちらかという とできなかった	できなかった	無回答			
人権教育	2-①	<b>自己理解</b>						
		低学年：自分のよいところを知っていますか。	はい			いいえ	無回答	わからない
		<b>自他の大切さの理解（他者意識）</b>						
	中学年：周りに困っている人がいたら助けますか。	できた	どちらかという とできた	どちらかという とできなかった	できなかった	無回答		
	高学年：自分と同じように、相手のことを大切にしていますか。	できた	どちらかという とできた	どちらかという とできなかった	できなかった	無回答		
	2-②	<b>他者理解</b>						
		低学年：友だちのよいところを知っていますか。	はい			いいえ	無回答	わからない
		<b>自他の大切さの理解（自己意識）</b>						
	中学年：自分が困っている時に、友だちや先生に声をかけることができますか。	できた	どちらかという とできた	どちらかという とできなかった	できなかった	無回答		
	高学年：自分が困っている時は、周りに助けを求めることができますか。	できた	どちらかという とできた	どちらかという とできなかった	できなかった	無回答		
	2-③	<b>人権の理解</b>						
		低学年：一人ひとり違いがあってもよいと思いますか。	はい			いいえ	無回答	わからない
中・高学年：一人ひとり違いがあってもよいと思いますか。	はい			いいえ	無回答	わからない		
生活指導	3-①	<b>右側廊下歩行</b>						
	廊下では、右側を歩くことができますか。	はい			いいえ	無回答		
	3-②	<b>生活目標を意識した学校生活</b>						
	毎月の生活目標を意識し、守ろうとしていますか。	はい			いいえ	無回答		
	3-③	<b>考える掃除の実施</b>						
	どのようにそうじに取り組みしていますか。	友達と協力して担当場所をきれいにし、担当以外の場所も掃除ができています。	自分の担当場所をすみずみまできれいにすることができている。	時間内に担当場所をきれいにできている。	時間内に担当場所のそうじを終わることができている。	無回答		
	3-④	<b>元気なあいさつ</b>						
自分から相手に聞こえる元気なあいさつができていますか。	はい			いいえ	無回答			
3-⑤	<b>生活の約束の順守</b>							
自分や相手を大切にするために、生活の約束を守れていますか。	はい			いいえ	無回答			
保健体育	4-①	<b>楽しい運動</b>						
	運動することは楽しいですか。	楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくはない	無回答		
	4-②	<b>休み時間の運動活動</b>						
	休み時間に、外で元気にからだを動かしましたか。	毎日動かしした	ときどき動かしした（週に3・4日）	どちらかという と、動かしな かった（週に 1・2日）	動かしなかった	無回答		
	4-③	<b>目標を明確化した体育授業への参加</b>						
	体育の勉強を一生懸命できましたか。（めあてをもって取り組むことができましたか。）	一生懸命できた（できた）	どちらかという とできた	どちらかという とできなかった	できなかった	無回答		
	4-④	<b>授業を通じての運動技能の獲得</b>						
体育の勉強でできることや上手になったことが増えましたか。（できることが増えたり、記録をのべたりできましたか。）	たくさん増えた（できた）	増えた（どちらかという とできた）	すこし増えた（どちらかという とできなかった）	増えなかった（できなかった）	無回答			
4-⑤	<b>投運動への興味関心</b>							
ボールを投げる運動は楽しいですか。	楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくはない	無回答			
4-⑥	<b>朝の体操・ストレッチの積極的実施</b>							
朝の体操のストレッチで、体をたくさん動かすことができましたか。	できた	どちらかという とできた	どちらかという とできなかった	できなかった	無回答			

### R7 年度末 全校児童アンケート

分類	番号	全校 項目	肯定%	消極的肯定%	消極的否定%	否定%	無回答%	認識% (わからない)	肯定意見 (%)	否定意見 (%)
	1-②	協働的な学び	70	27	2	1	0		96	4
人 権 教 育	2-①	低：自己理解 中高：自他の大切さの理解（他者意識）	64	24	2	2	0	7	88	4
	2-②	低：他者理解 中高：自他の大切さの理解（自己意識）	61	23	7	4	0	4	84	12
	2-③	人権の理解	93			2	0	5	93	2
生 活 指 導	3-①	右側廊下歩行	77			23	0		77	23
	3-②	生活目標を意識した学校生活	75			25	0		75	25
	3-③	考える掃除の実施	38	54		8	1		92	8
	3-④	元気なあいさつ	87			13	0		87	13
	3-⑤	生活の約束の順守	95			6	0		95	6
保 健 体 育	4-①	楽しい運動	73	22	3	2	0		95	5
	4-②	休み時間の運動活動	48	21	20	11	0		69	32
	4-③	目標を明確化した体育授業への参加	68	27	4	2	0		95	5
	4-④	授業を通じての運動技能の獲得	71	23	4	2	1		94	6
	4-⑤	投運動への興味関心	62	24	9	5	0		86	14
	4-⑥	朝の体操・ストレッチの積極的实施	58	31	7	3	1		89	10

肯定的意見の割合が85以上  
否定的意見の割合が31以上

肯定的意見の割合が90～100  
肯定的意見の割合が80～89  
否定的意見の割合が41以上  
否定的意見の割合が31～40  
否定的意見の割合が21～30



## 児童アンケートの考察

・今回の年度末アンケートで児童の肯定的意見が高い割合だった項目は、中間アンケートと比べて1項目減り8項目であった。「個別最適な学び」「協働的な学び」「人権の理解」「考える掃除の実施」「生活の約束の順守」「楽しい運動」「目標を明確化した体育授業への参加」「授業を通じての運動技能の獲得」の8項目で、いずれも90%以上の児童が肯定的な評価をしている。16項目中8項目で90%以上の達成率であり、今年度の教育活動においては大きな問題は無く、概ね安定した教育活動が展開されていたといえる。来年度の教育活動においても、これらの点を大事にして教育活動を進めていきたい。その中でも「個別最適な学び」「協働的な学び」「生活の約束の順守」「楽しい運動」「目標を明確化した体育授業への参加」の5項目は、95%以上の児童が肯定的な評価をしており、全ての学年で高い達成率であった。これらの項目については、今年度の教育活動において十分達成できたといえる。とりわけ「個別最適な学び」は、全体の達成率が97%と高く、5年生では99%、6年生では100%の達成率であった。今年度、本校は学校経営の重点目標として、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を掲げ、研究部を中心に校内研究を進めてきたが、昨年度までの重点目標であった「主体的・対話的で深い学びの実現」をベースに、児童が自己の学習を調整しながら学んでいる様子が窺える。今後も、児童が自分らしさを大切に学びに向かえるよう校内研究を推進し、児童への支援を続けていきたいと考える。

R7年度末 各学年及び全校児童アンケート

分類	番号	項目	肯定的意見(%)							否定的意見(%)							無回答(%)						
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
研究 推進	1-①	個別最適な学び	95	97	95	94	99	100	97	5	3	5	6	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0
	1-②	協働的な学び	97	95	95	98	96	98	96	3	5	5	2	4	2	4	0	0	0	0	0	0	0
人権 教育	2-①	低：自己理解 中高：自他の大切さの理解（他者意識）	68	75	96	92	100	96	88	9	3	2	8	0	4	4	0	0	2	0	0	0	0
	2-②	低：他者理解 中高：自他の大切さの理解（自己意識）	77	86	75	82	96	86	84	8	5	23	18	4	14	12	0	0	2	0	0	0	0
	2-③	人権の理解	94	91	93	95	96	90	93	3	2	0	2	0	2	2	0	0	2	0	0	0	0
生活 指導	3-①	右側廊下歩行	77	76	79	82	71	76	77	23	24	21	18	29	23	23	0	0	0	0	0	1	0
	3-②	生活目標を意識した学校生活	92	95	86	74	55	59	75	8	5	14	26	45	41	25	0	0	0	0	0	0	0
	3-③	考える掃除の実施	94	93	88	97	88	91	92	6	7	11	3	12	8	8	0	0	2	0	0	1	1
	3-④	元気なあいさつ	88	86	82	92	96	80	87	13	14	16	8	4	20	13	0	0	2	0	0	0	0
	3-⑤	生活の約束の順守	94	93	98	95	96	92	95	6	7	2	5	4	8	6	0	0	0	0	0	0	0
保健 体育	4-①	楽しい運動	95	97	98	92	97	91	95	5	3	2	8	3	9	5	0	0	0	0	0	0	0
	4-②	休み時間の運動活動	95	85	72	72	59	42	69	5	15	28	28	41	58	32	0	0	0	0	0	0	0
	4-③	目標を明確化した体育授業への参加	97	97	95	98	94	90	95	3	3	5	2	6	10	5	0	0	0	0	0	0	0
	4-④	授業を通じての運動技能の獲得	89	92	93	98	100	91	94	11	8	5	2	0	8	6	0	0	2	0	0	1	1
	4-⑤	投運動への興味関心	92	91	88	93	81	77	86	8	9	12	7	19	23	14	0	0	0	0	0	0	0
	4-⑥	朝の体操・ストレッチの積極的实施	94	92	82	93	93	84	89	6	8	18	7	7	14	10	0	0	0	0	0	2	1

肯定的意見が90%以上  
否定的意見が21%以上

肯定的意見90~100%  
肯定的意見80~89%

否定的意見41%以上  
否定的意見31%以上  
否定的意見21~30%

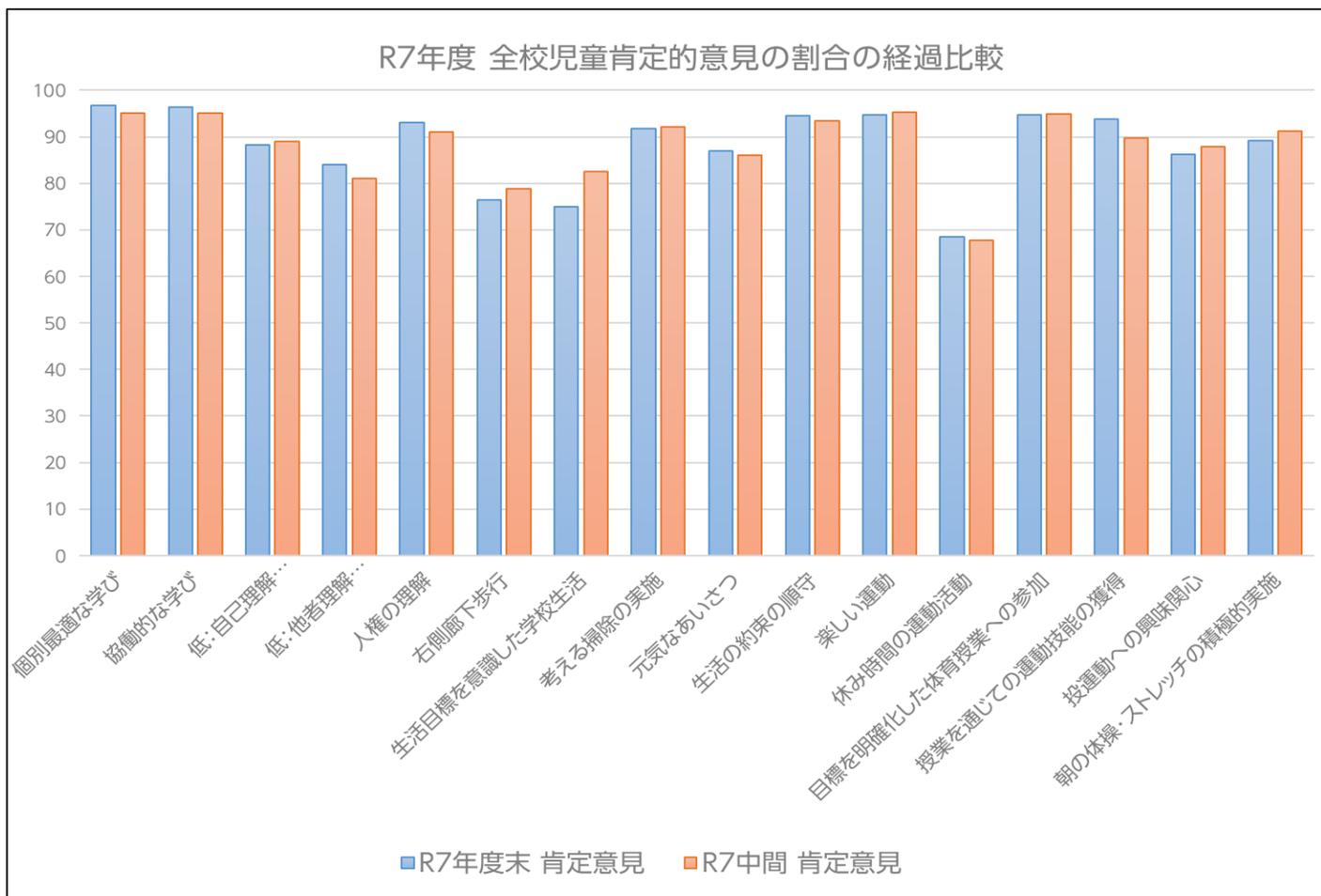
・肯定的意見の割合が高い項目が一番多い学年は2年生と4年生で、16項目中、14項目で肯定的な評価をしている。1年生、3年生、5年生は16項目中13項目で肯定的な評価をし、6年生は、16項目中12項目で肯定的な評価をしている。1年生と4年生については、中間期と比べ肯定的評価をする項目が増えており、1年生は項目全体で評価が上昇していた。その中でも「他者理解」は11ポイント、「人権の理解」は17ポイント、「元気なあいさつ」は11ポイント、「休み時間の運動活動」は13ポイント評価が上昇していた。4年生は、中間期と比べて肯定的意見の割合が高い項目が1項目増えたが、それ以外の項目においても達成率が上昇しており、いずれの学年も、後半の教育活動において取組の改善が重点的に図られたといえる。各学年の肯定的評価の項目を見てみると、低学年と高学年で評価の違いはあまり見られない。全校で達成率が高くない項目については多くの学年で達成率が高くなく、発達的面からの評価の違いはあまり見られなかったといえる。今よりも楽しく充実した学校生活を送るためや、児童が自身を認められるといった自己肯定感の獲得のためには、各項目で肯定評価が多いことがよいのは言うまでもないことである。来年度、引き続き低評価であった項目に重点的に取り組み、改善を図っていききたい。

### R7年度 全校児童肯定的意見の割合の経過比較

分類	番号	全校 項目	R7年度末	R7中間	R7年度末	R7中間
			肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見
推 研 進 究	1-①	個別最適な学び	97	95	3	5
	1-②	協働的な学び	96	95	4	4
人 権 教 育	2-①	低：自己理解 中高：自他の大切さの理解（他者意識）	88	89	4	3
	2-②	低：他者理解 中高：自他の大切さの理解（自己意識）	84	81	12	13
	2-③	人権の理解	93	91	2	3
生 活 指 導	3-①	右側廊下歩行	77	79	23	20
	3-②	生活目標を意識した学校生活	75	82	25	16
	3-③	考える掃除の実施	92	92	8	6
	3-④	元気なあいさつ	87	86	13	13
	3-⑤	生活の約束の順守	95	93	6	6
保 健 体 育	4-①	楽しい運動	95	95	5	4
	4-②	休み時間の運動活動	69	68	32	32
	4-③	目標を明確化した体育授業への参加	95	95	5	5
	4-④	授業を通じての運動技能の獲得	94	90	6	10
	4-⑤	投運動への興味関心	86	88	14	12
	4-⑥	朝の体操・ストレッチの積極的实施	89	91	10	9

改善が見られた項目（10ポイント以上の上昇）	肯定的意見の割合が90～100
改善が見られた項目（10ポイント未満の上昇）	肯定的意見の割合が80～89
改善が必要な項目（否定意見の割合が高く、下降）	否定意見の割合が41以上
注意が必要な項目（5ポイント以上の下降）	否定意見の割合が31～40
	否定意見の割合が21～30

・否定的意見が高い割合だった項目は、中間期と同じ「休み時間の運動活動」と、新たに「右側廊下歩行」「生活目標を意識した学校生活」の3項目で、それぞれ32%、23%、25%の児童が、否定的な回答をしていた。「休み時間の運動活動」について、中間期と比べて達成率が上昇した学年は、1年生と3年生と4年生で、それぞれ、13ポイント、2ポイント、1ポイント上昇していた。それに対して、中間期と比べて達成率が下降した学年は、2年生、5年生、6年生で、それぞれ、1ポイント、5ポイント、3ポイント下降していた。全体では1ポイントの上昇で、全体的には軽微な改善に留まった。児童の体力向上をねらいとして、本校では休み時間の外遊びをすすめているが、高学年を中心になかなか達成できていない。特に高学年は、普段の委員会活動のため、なかなか自由に休み時間を使うことができないといったことが原因の一つとして考えられる。また、2学期は運動会や音楽会といった行事に向けて、高学年は中休みや昼休みに活動しなければならないことが多く、休み時間がとれなかったということも原因としてあげられる。さらに、成長に伴い、友だちとの関係性の持ち方にも変化が現れ、外で遊ぶことだけが友達との関係性を築く手段ではなくなってくることも原因として考えられる。考えられるこれらの原因を踏まえたうえで、本校の今年度の重点目標である「体力づくりの推進 ～苦手であっても運動やスポーツが楽しいと感じている～」を達成するために、従来の休み時間の運動活動の推進に加え、体育部が実施提案している全員参加の「朝の運動」(1学期は走運動、2学期は長縄・短縄、3学期はボール運動)の充実を図っていきたい。



「右側廊下歩行」について、中間期と比べて達成率が上昇した学年は、1年生と4年生で、それぞれ、2ポイント、4ポイント上昇していた。それに対して、中間期と比べて達成率が下降した学年は、2年生、3年生、5年生、6年生で、それぞれ、3ポイント、5ポイント、8ポイント、3ポイント下降しており、全体では2ポイント下降していた。

今回のアンケートで注意が必要な項目は、「生活目標を意識した学校生活」で、この項目で中間期と比べて達成率が上昇した学年は1年生のみで、6ポイント上昇していた。それに対して、中間期と比べて達成率が下降した学年は、3年生、4年生、5年生、6年生で、それぞれ、4ポイント、12ポイント、15ポイント、16ポイント下降していた。全体では7ポイントの下降で、特に高学年では10ポイント以上の下降が見られた。この項目は、昨年度も注意が必要と位置付けられた項目であり、今年度、改善が見られなかったのは残念である。毎月の生活目標を意識して学校生活を送ることが、充実した学校生活を送ることにつながるということを児童への意識づけするなど、来年度に向けて早急に改善を図りたい。

# 教員アンケート

## R7年度 学校評価

番号	評価項目	あてはまる(%)	どちらかといえばあてはまる(%)	どちらかといえばあてはまらない(%)	あてはまらない(%)
1	学校教育目標達成のため、教職員の協力により学校運営をしている。	A	B	C	D
2	教育課程にのっとり、授業を計画的に進めている。	A	B	C	D
3	個人情報観点から、児童の個人情報に関する管理をしている。	A	B	C	D
4	校務分掌は、学校運営上、効果的に機能している。	A	B	C	D
5	会議は、能率的・建設的に行われている。	A	B	C	D
6	体育で体力作りに取り組んでいる。	A	B	C	D
7	運動タイムで体力作りに取り組んでいる。	A	B	C	D
8	朝のストレッチを継続的に取り組んでいる。	A	B	C	D
9	児童理解をより深めるために、児童としっかりコミュニケーションを取り、悩みや不安を抱える児童の相談にのっている。	A	B	C	D
10	児童が進んで挨拶するよう指導している。	A	B	C	D
11	児童が落ち着いて学校生活を送れるように指導している。	A	B	C	D
12	いじめのない、あたたかい学級づくりに取り組んでいる。	A	B	C	D
13	実態に応じた特別支援教育に取り組んでいる。	A	B	C	D
14	学びの意欲を喚起する授業の工夫に努めている。	A	B	C	D
15	考えや気持ちを伝え合う力を養う授業を目指している。	A	B	C	D
16	タブレットを効果的に使用した指導方法の工夫に努めている。	A	B	C	D
17	校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理している。	A	B	C	D
18	危機管理（防犯、災害）を適切に行っている。	A	B	C	D
19	教室・トイレ・花壇・掲示板など、環境を整備し、学校の美化に努めている。	A	B	C	D
20	学校だより、学年・学級通信、ホームページ等を通じて、教育活動について広報している。	A	B	C	D
21	教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす体制を整えている。	A	B	C	D
22	授業参観、懇談等で児童の様子を伝えている。	A	B	C	D
23	保護者の願いを受け止め、応えようとしている。	A	B	C	D

## R7年度末 教員アンケート

番号	全教員	あてはまる(%)	どちらかといえばあてはまる(%)	どちらかといえばあてはまらない(%)	あてはまらない(%)	肯定意見(%)	否定意見(%)
	項目						
1	学校教育目標達成を目指した学校運営	78.6	21.4	0	0	100	0
2	教育課程にのっとった教育活動	78.6	21.4	0	0	100	0
3	個人情報の適切な管理	92.9	7.1	0	0	100	0
4	機能的な校務分掌	35.7	35.7	21.4	7.1	71	29
5	能率的・機能的な会議	42.9	28.6	21.4	7.1	72	29
6	体育科における体力づくりの実施	78.6	21.4	0	0	100	0
7	運動タイムでの体力づくりの実施	71.4	14.3	14.3	0	86	14
8	朝のストレッチの継続実施	71.4	28.6	0	0	100	0
9	深い児童理解のための児童とのコミュニケーション活動 (悩みや不安を抱える児童の相談にのる)	85.7	14.3	0	0	100	0
10	児童へのあいさつ指導	42.9	57.1	0	0	100	0
11	落ち着いた学校生活のための指導	78.6	21.4	0	0	100	0
12	いじめのない、あたたかい学級づくり	78.6	21.4	0	0	100	0
13	実態に応じた特別支援教育	57.1	42.9	0	0	100	0
14	学びの意欲を喚起する授業の工夫	57.1	42.9	0	0	100	0
15	考えや気持ちを伝え合う力を養う授業	64.3	35.7	0	0	100	0
16	タブレットを効果的に使用した指導方法の工夫	57.1	28.6	14.3	0	86	14
17	施設設備の定期的点検、及び結果の的確処理	57.1	42.9	0	0	100	0
18	適切な危機管理(防犯、災害)	71.4	28.6	0	0	100	0
19	学校の環境整備・美化	57.1	42.9	0	0	100	0
20	教育活動についての広報 (学校だより、学年・学級通信、HP)	85.7	14.3	0	0	100	0
21	地域の教育力を生かす体制(地域人材・施設)	71.4	21.4	0	7.1	93	7
22	児童の様子を伝える参観・懇談	92.9	7.1	0	0	100	0
23	保護者の願いを受け止めた教育活動	78.6	21.4	0	0	100	0

肯定的意見の割合が80以上

否定的意見の割合が31以上

肯定的意見の割合が90~100

肯定的意見の割合が80~89

否定的意見の割合が41以上

否定的意見の割合が31~40

否定的意見の割合が21~30

## 教員アンケートの考察

・23項目中21項目で肯定的意見が80%以上であった。そのうち「運動タイムでの体力づくりの実施」「タブレットを効果的に使用した指導方法の工夫」の2項目は達成率が86%であったが、他の19項目は達成率が9割を超えており、達成率が100%だったものは18項目もある。この結果から、本校の教員は、今年度の教育活動をはじめとした学校運営について肯定的に捉え、高く評価していることがわかる。各々の教員が、中間期のアンケートの結果を踏まえて教育活動に取り組み、年度末の児童アンケートの結果からもわかるように後半の教育活動で改善が図られたことから、このように高評価であったと思われる。

・否定的意見が30%を超えたものはなく、否定的意見の割合が比較的高かったものは、「機能的な校務分掌」「能率的・機能的な会議」の2項目であった。これは、校務分掌が学校運営上、効果的に機能しているかの評価項目であるが、課題であると感じている教員が一定数いることがわかった。今年度、本校は、小規模校の教員数で機能する校務分掌へと改編した。教員数が減少していることを受けて6部会をA部会とB部会に分け、各々の教員がどちらの部会にも所属するようにした。こうすることで部会内の構成人員数は昨年度の分掌よりも増え、部会内での活動の機能性は改善された。だがその反面、各々の教員の部会への参加回数は増えることとなり、業務遂行の面での負担は増えることとなった。教員の人員定数が増える見込みがない以上、校務分掌の体制は今年度同様にA、B部会を設置せざるをえない。各部会で取り組み内容に優先順位をつけて精選を図ることで能率性を高め、負担軽減へと努めていきたい。また、各部会での中心的な役割を果たす主任や副主任を中、長期的な視点で任用し、部会内の活動が円滑に進むようにしていきたい。

・各々の教員が、中間期のアンケート結果を踏まえて取組の改善を試みるなど、本校の学校評価におけるPDCAサイクルは機能していると考えられる。「運動タイムでの体力づくりの実施」「タブレットを効果的に使用した指導方法の工夫」については、次年度、取組の強化を図り、なお一層の充実を目指していきたいと考える。

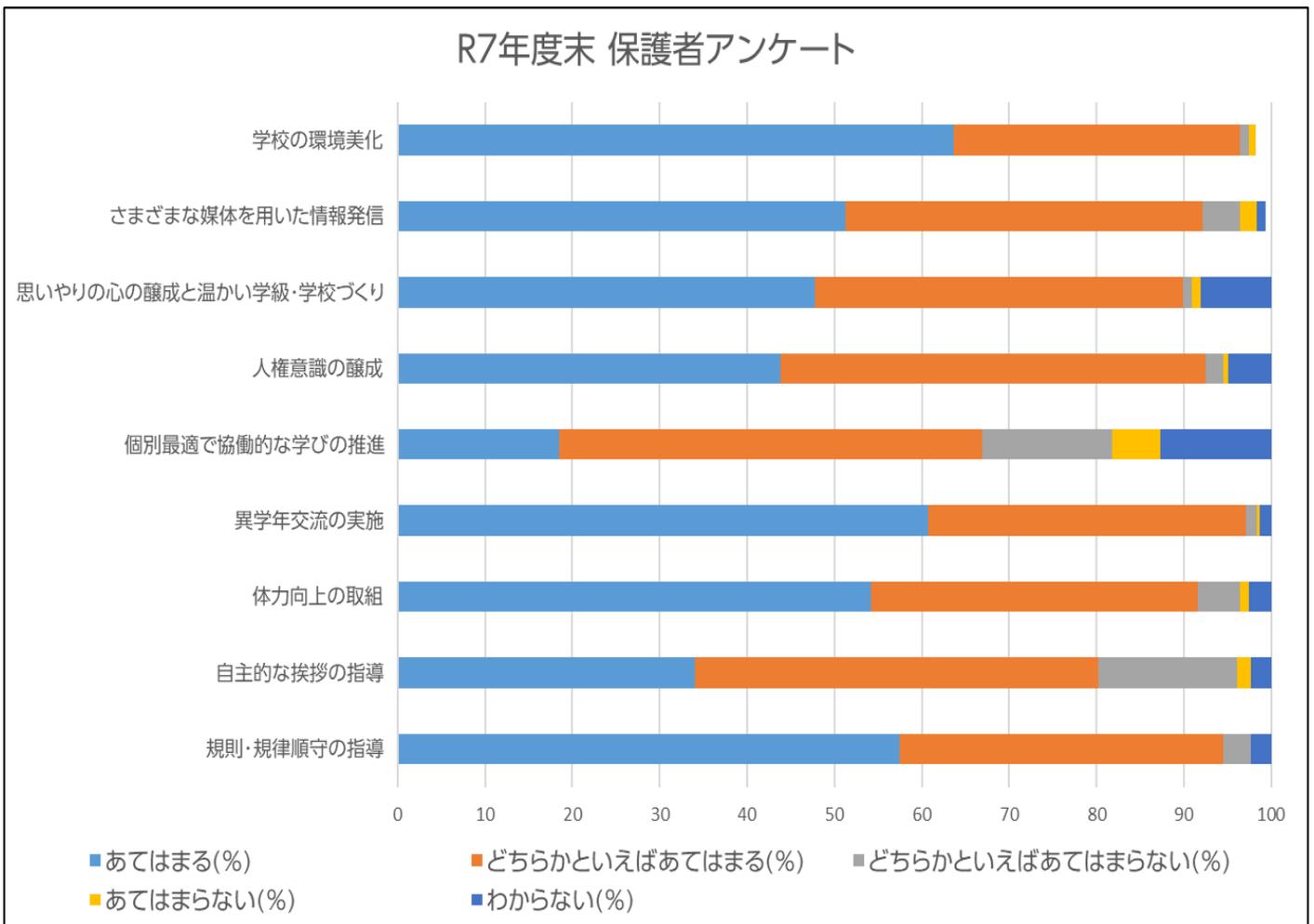
保護者アンケート

R7年度 学校運営保護者アンケート

番号	評価項目	あてはまる (%)	どちらかといえばあてはまる (%)	どちらかといえばあてはまらない (%)	あてはまらない (%)	わからない (%)
1	<b>規則・規律順守の指導</b> 自分や相手を大切にするためにルールを守って生活しようとしている。	A	B	C	D	E
2	<b>自主的な挨拶の指導</b> 子どもは、自分から相手に伝わるあいさつをしようとしている。	A	B	C	D	E
3	<b>体力向上の取組</b> 学校は、体育の学習や運動タイム、行事等を通して、子どもの体力向上に取り組んでいる。	A	B	C	D	E
4	<b>異学年交流の実施</b> 学校は、縦割り活動を中心に行事などを通して、異学年との交流を深めている。	A	B	C	D	E
5	<b>個別最適で協働的な学びの推進</b> 子どもは、自分で考え自分に合った学習の仕方を知ろうとしている。(新設質問)	A	B	C	D	E
6	<b>人権意識の醸成</b> 子どもは、友だちの良さや違いを認め合うことができている。(R6子どもは、友だちと仲良く学校生活を送っている。)	A	B	C	D	E
7	<b>思いやりの心の醸成と温かい学級・学校づくり</b> 学校は、子どもたちに思いやりの心を持たせ、あたたかい学級づくり・学校づくりに取り組んでいる。	A	B	C	D	E
8	<b>さまざまな媒体を用いた情報発信</b> 学校(学年、学級)は、ホームページやX・すぐーやプリント等を使って、子どもたちの様子を伝えている。	A	B	C	D	E
9	<b>学校の環境美化</b> 学校は、季節の花々の栽培を中心に、環境美化に努めている。	A	B	C	D	E

## R7年度末 保護者アンケート

番号	全教員	あてはまる (%)	どちらかといえばあてはまる (%)	どちらかといえばあてはまらない (%)	あてはまらない (%)	わからない (%)	肯定意見 %	否定意見 %	認識% (わからない)
	項目								
1	規則・規律順守の指導	57	37	3	0	2	94	3	2
2	自主的な挨拶の指導	34	46	16	2	2	80	18	2
3	体力向上の取組	54	37	5	1	3	92	6	3
4	異学年交流の実施	61	36	1	0	1	97	2	1
5	個別最適で協働的な学びの推進	19	48	15	6	13	67	20	13
6	人権意識の醸成	44	49	2	1	5	93	3	5
7	思いやりの心の醸成と温かい学級・学校づくり	48	42	1	1	8	90	2	8
8	さまざまな媒体を用いた情報発信	51	41	4	2	1	92	6	1
9	学校の環境美化	64	33	1	1	0	96	2	0



## 保護者アンケートの考察

・質問項目は、全部で9項目であったが、8項目で肯定的意見の割合が8割を超え、全体的に高い評価をしてもらった。その中でも「規則・規律順守の指導」「体力向上の取組」「異学年交流の実施」「人権意識の醸成」「思いやりの心の醸成と温かい学級・学校づくり」「さまざまな媒体を用いた情報発信」「学校の環境美化」の7項目は達成率が9割を超え、多くの保護者が本校の教育活動や学校運営について理解をし、肯定的に捉えていることが分かった。このことから、今年度の学校運営において、目標は達成できたのではないかと考える。次年度もさらに取組を進め、教育活動の充実を図っていきたい。

・否定的意見の割合が高いというわけではないが、肯定的意見がそれほどまで高くない項目は、「個別最適で協働的な学びの推進」である。これは「児童が自己調整しながら学習を進めることができるか」を問うた項目であるが、この項目の肯定的意見の割合は67%で否定的意見の割合は20%、「わからない」が13%であった。同じく「場面に応じて、自分で考えたり、友達と考えたり、学習の仕方を選ぶことができたか」について問うた児童アンケートの「個別最適な学び」は、達成率が97%であった。このことから児童は、学習活動において学習課題や目標を明確にしたう

### 保護者の肯定的意見の割合経年比較

番号	項目	R7保護者	R6保護者	R7保護者	R6保護者
		肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見
1	規則・規律順守の指導	94	96	3	2
2	自主的な挨拶の指導	80	82	18	13
3	体力向上の取組	92	94	6	3
4	異学年交流の実施	97	94	2	3
5	個別最適で協働的な学びの推進	67		20	
6	人権意識の醸成	93		3	
7	思いやりの心の醸成と温かい学級・学校づくり	90	91	2	3
8	さまざまな媒体を用いた情報発信	92	90	6	5
9	学校の環境美化	96	92	2	0
	改善が見られた項目（10ポイント以上の上昇）				肯定的意見の割合が90～100
	改善が見られた項目（10ポイント未満の上昇）				肯定的意見の割合が80～89
	改善が必要な項目（否定意見の割合が高く、下降）				否定的意見の割合が41以上
	注意が必要な項目（5ポイント以上の下降）				否定的意見の割合が31～40
					否定的意見の割合が21～30

えで自ら課題解決の道筋を立て、自己調整しながら学習を進められているのだが、保護者には児童の学校での学びの姿がなかなか伝わっていないということが分かった。保護者アンケート「わからない」が13%ということも併せて考えると、個別最適で協働的な学びが一体的に取り組まれている学習の様子を参観してもらったり、学校だより等で周知を図ったりすることで理解を促していく必要があると思われる。

・肯定的意見の割合を経年比較してみると、上昇した項目は「異学年交流の実施」「さまざまな媒体を用いた情報発信」「学校の環境美化」の3項目で、下降した項目は「規則・規律順守の指導」「自主的な挨拶の指導」「体力向上の取組」「思いやりの心の醸成と温かい学級・学校づくり」4項目である。一見、評価が下がったように感じるが、4項目中3項目は下降してもなお90%越えの達成率であり、下降幅もわずかであることから、それ程問題にすることではないかと思われる。しかし、「自主的な挨拶の指導」については、昨年度に比べて2ポイント下降しているうえに達成率が8割というところから、今後、取組の強化を図っていく方がよいと思われる。学校だけの取組とせずに、家庭や地域にも協力を呼びかけ、学校・家庭・地域の一体的な取組としていきたい。中間期の児童アンケートの考察でも述べたが、保護者に向けて、なお一層の周知を図っていきたい。

